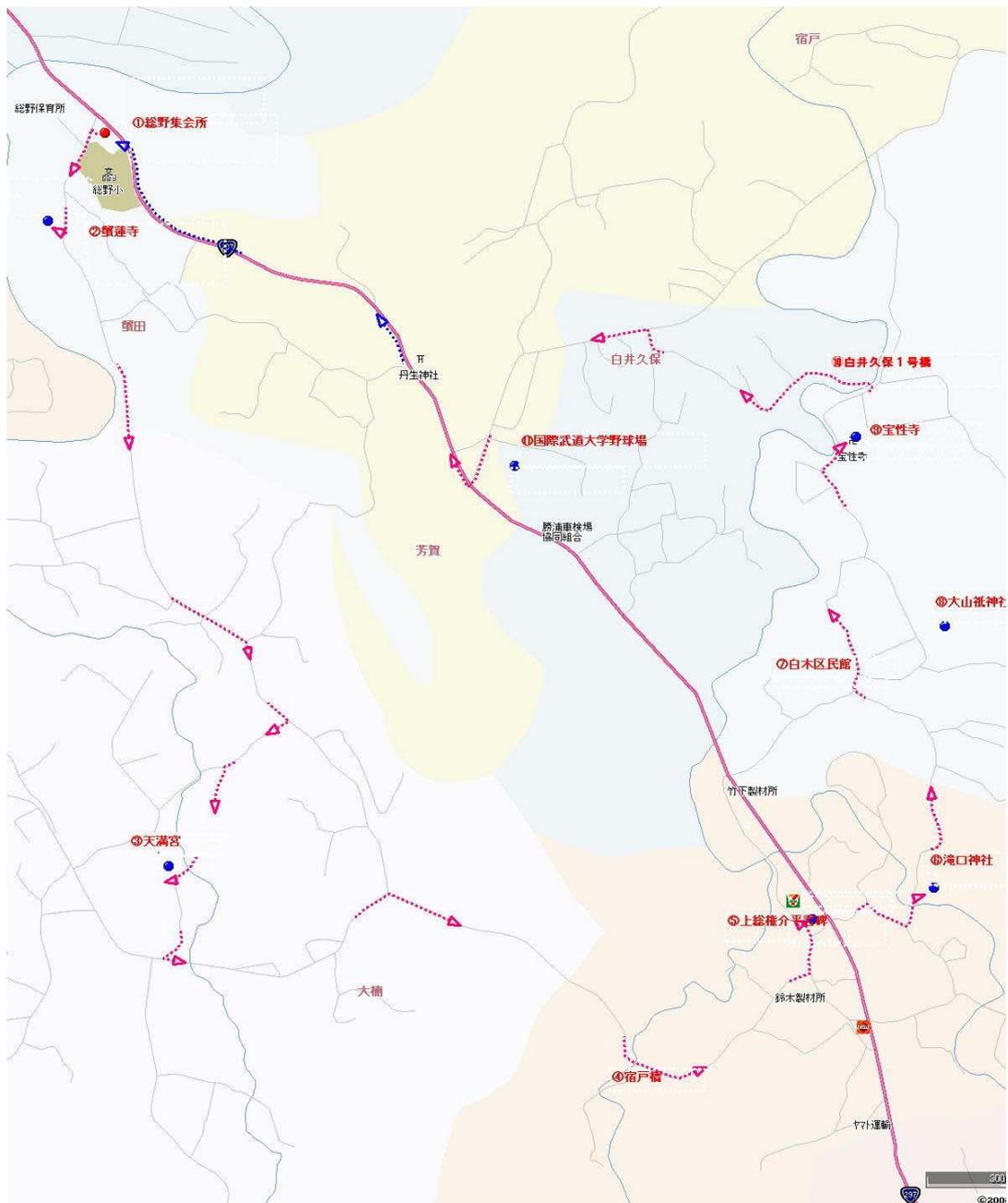


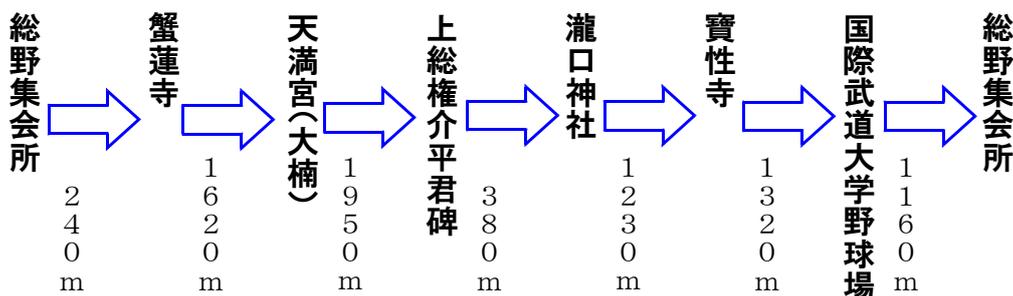
総の国コース

房総半島はかつて、「総の国」と総称された。総とは麻を意味し、阿波忌部の祖先・天富命が房総半島に移住し、麻を植えたところ良く育ったのでこの地を麻の別名・「ふさ」をとって「ふさの国」と名付けたとされている。この総野地域は、当時の村の知識人が「よく麻の生ずる所これを総の国という」（古語拾遺）の一節から、沃土を象徴して名付けたものであろうとされている「夷隅風土記・森輝著」。このコースはその名の通りの豊かな自然を満喫できるコースである。

経路図



コースの経路(7.9km)



【経路説明】

①総野集会所に車を置き、入口から奥に進むと階段がある。そこを下り、左折する。240m程進むと「かに池伝説」の蟹塚のある②蟹蓮寺がある。田圃や林に囲まれた小道を進む。この道沿いを流れる小川は季節になると源氏や平家ホタルの乱舞を見ることが出来る。②から1.2km進み、大栄寺入口の50m手前を右折する。更に150m先の田圃道を左折し、300m程行くと彫物師嶋村俊正の彫刻のある③天満宮に出る。鳥居を出て200m程行くと比較的広い道に出る。そこを左折する。山道を1.2km程進むと④宿戸橋にでる。更に500m進むと丁字路に突き当たる。右に鈴木製材所がある。突き当たりを左折すると間もなくセブンイレブンの駐車場がある。その駐車場の脇に大きな二本の杉の木がある。その下に⑤上総権介平君碑がある。

※平広常の家臣が主君の兜を鎌倉から持ち帰り埋葬したという伝承がある。

元来た道を少し引き返し、左折し、国道297号線を横切るトンネルを抜け、田圃道を250m程行くと鳥居が見える。ヤマトタケルを祭った⑥瀧口神社である。鳥居の先を100m進み右折、白木地区の迷路のような小道を500m程進むと⑦白木区民館に出る。

※白木区民館には鳥居があり右手140m先に⑧大山祇神社が見える。

白木区民館を道なりに600m行くと日蓮宗の⑨宝性寺に出る。先に進み200m行くと夷隅川にかかる⑩白井久保1号橋がある。欄干のない小さな橋である。その橋を渡り竹林の中を行く。この道を登りながら600m程行くと広い道に出る。左折し、500m行くと⑪国際武道大学野球グラウンドに出る。角の信号機のある国道297号線を右折し、下りながら1.2km程行くと①総野集会所に出る。

コースの見所

① 蟹蓮寺の蟹塚 民話「蟹田村のかに池伝説」より

今はもうかかれてしまったがのう。むかし 蟹田の村に池があつての たくさんの蟹がおつた。村のものは、その池を"かに池" と 呼んでおつたそうな。

娘がおつた。庄屋の娘で、名をみやというて、小さい頃から利口でやさしい子じゃった。みやがまだ十を越した頃のことじゃ。つかいの帰り道、かに池のそばを通りかかると、自分より年のいかぬ子どもらが、蟹をいじめておつた。棒でつついたり、石を投げたりしての…蟹が怒ってはさみをふり上げると、おもしろがっておつた。

みやは、見かねて、子どもらを追い払い、蟹を助けてやったんじゃ。その蟹は、りっぱなはさみをもって身体も大きくな、池のヌシだったんじゃよ。・・・

後にこのみやが助けた蟹の子孫に助けられるという「かに池伝説」の蟹塚（写真）が蟹蓮寺に今もある。



② 大楠の天満宮

学問の神様と言われる菅原道真を祀った本神社は、元和元年（1615年）当区の向小羽戸天神塚より移転建立された。その後何度か被災し、焼失や破損があったが、嘉永2年（1849年）茅葺きで新築再興され、昭和13年（1938年）一部改修と同時に瓦葺きとなり今に至る。

建物の構造は、拝殿が桁行三間、梁間三間、一重、入母屋造り、正面千鳥破風付、向拝一間、軒唐破風付、棧瓦葺き、幣殿は、桁行二間、梁間二間、一重、一端、拝殿接続、他端入母屋造り、棧瓦葺き、宮殿は一間社流造り、こけら葺きで宝暦6年（1756年）のものと思われる。

社殿全体に豊富な彫刻が施され、拝殿向拝中備には、江戸浅草神田住、島村家八代、嶋村俊正、背面中央間欄間には房州住、後藤傳吉郎住兼、それぞれの銘が確認されている。

（菅原神社沿革より）

※嶋村俊正：作品に市指定文化財の仲本町の屋台の彫刻、旭市長禅寺欄間、八日市場市愛宕神社本殿の彫刻などがある。

③ 大杉八幡神社跡の平君碑

治承四年（1180年）挙兵した源頼朝は石橋山の合戦で敗れ、安房に入り再挙を図る。上総権介であった平広常は遅参するも上総勢2万騎とともに頼朝の陣に合流し、鎌倉幕府創立に貢献した。

※平広常の本拠地はいすみ市下布施説や長生郡一宮町説がある。不明ではあるがこの地には多大な影響力があったと思われる。

その後平広常は寿永二年（1183年）梶原影時の諫言により謀殺される。このとき

家臣の一人が鎌倉から広常の兜をひそかに持ち帰り、宿戸の大杉八幡神社（現在社殿はない）に埋め、祭ったという伝承がある。

この境内には文化十三年（1816年）宿戸在住の磯野蘭溪が親交のあった江戸の儒者太田錦城撰文で作ったとされる「上総権介平君碑」が今もある。**夷隅風土記**

この平君碑は二本の杉の巨木の間にはっきりと佇んでいる。

※太田錦城：1765～1825年 江戸時代後期の儒学者。名は元貞。明和2年加賀 国大聖寺生まれ。折衷学派を大成した。晩年、金沢藩前田家に出仕し、「尚書精義」など多数の著書がある。水戸尊皇攘夷の論客藤田東湖は錦城を師と仰いだ。



④ 瀧口神社

ヤマト朝廷の成立期の神話として、日本武尊の活躍の伝説がある。ここ上総の地では相模から上総に渡る際の弟橘姫にちなんだ、木更津や袖ヶ浦の由来は有名である。

勝浦市新戸地区にもヤマトタケル伝説がある。東征の折、ミコトがこの地で休止されたので"神止"と言った。新戸の地名は"神止"が転じたものという。

勝浦市宿戸にある瀧口神社は日本武尊を祭神としている。この神社を参拝する際には、ヤマトタケル伝説を思い起こしてはいかがでしょうか。



勝浦市部原にも日本武尊を祭神とする瀧口神社がある。この部原は、尊がこの地に来た折、悪蛇が人を害するのを聞き、自らこれを退治した。じらい里人がこの地を「蛇原」と言ったが、いつしか「部原」に転じたというヤマトタケル伝説がある。**夷隅風土記**

⑤ 寶性寺

勝浦市白木にある寶性寺（日蓮宗）は、長禄二年（1458年）日意の開基である。

本堂は天保十五年（1844年）、日朝堂は嘉永六年（1853年）の建立である。この建物は江戸末期の地方寺院に見られる典型的な技法が示されている。**夷隅風土記**



緑豊かな田園の細道を曲がり曲がりしながら行くと、小高い丘に続く階段に寺院の一部

が顔を見せる。寶性寺である。階段を上りきると広い境内ではないが、まとまりのある整った寺院が目に入ってくる。



⑥ 国際武道大学野球場

1984年国際武道大学創設と同時に創部。岩井監督の「基本に忠実」をモットーに練習を重ね、着実に実績を積んでいる。

主な成績は	2007年	関東地区大学野球権	ベスト4
	2006年	全日本大学野球選手権	ベスト8
	2002年	全日本大学野球選手権	ベスト8
	2001年	全日本大学野球選手権	ベスト8 など

現在プロ野球で活躍中のOBは

高橋 光信 (阪神タイガーズ)	1997年卒業
中村 一生 (中日ドラゴンズ)	2005年卒業
山本 淳 (埼玉西武ライオンズ)	2005年卒業

また、平成20年度のドラフト会議では、仲澤広基選手「読売巨人軍より」と柴田講平選手「阪神タイガースより」の2名がドラフト指名を受けた。

コースの近くにある文化財(施設)

① 日蓮聖人消息断簡 市指定有形文化財

信仰の厚い人々が聖人の直筆を大切に保持するため、消息文を分断し守護した。

妙堤寺 勝浦市市野川60

② 大クス 市指定天然記念物

樹高25mのクスノキ。日蓮聖人の直弟子日持聖人が開山の砌、お手植えしたもの。

真福寺 勝浦市市野郷921

③ 勝浦宇宙通信所

人工衛星からの電波を受信し、人工衛星の状態、位置、姿勢などを監視している施設。

勝浦市芳賀花立山1-14